

# 県勢 2年ぶり決勝対決

春季四国

## 高校野球

第2日

第76回春季四国地区高校野球大会第2日は23日、春野球場で準決勝2試合を行った。明徳義塾（高知1位）が城東（徳島2位）に2-1で競り勝ち、高知（高知2位）は丸亀城西（香川

2位）を5-2で破って決勝進出を決めた。決勝での県勢対決は2004年に1県2校代表制となつて以降、2年ぶり2度目。前回も明徳・高知の顔合わせだった。明徳は中止された20年の第73回大会を挟んで4大会連続、高知は2年ぶりの決勝進出。

決勝戦は最終日の29日午後1時から春野球場で行われる。

# 明徳 6回3長短打2点 2投手で城東振り切る

地2▽犠打 城0、明2（江を奪い、継投で粘る城東口、内山）▽犠飛 城1（采を振り切った。打線は6福 明0▽盗塁 城2（加純、藤倉、明0▽失策 城の前に五回まで2安打にQ、明1（竹下）▽併殺 城抑えられたが、六回に集▽試合時間 2時間15分▽審判 田内、下西、堀川、三石中打で攻略。速球を狙い【評】明徳は六回に適打で均衡を破り、続く1時打2本で虎の子の2点死一、三塁では三岡が変

## 明徳内山 緩い球で難敵翻弄

「絶対に先に点はやらさない」。明徳の2年生左腕内山は緩い球を生かした投手術で、初戦で高松商に打ち勝った城東を翻弄した。

21世紀枠でセンバツ初出場の城東は「投手は全レベル。追う展開はきついで」と馬淵監督が成長を認める難敵だ。プレー

「自分の成長はチームの底上げにつながる。次も自分らしい投球を」と4年ぶり頂点へ意欲十分。先輩のエース小林とともに、常勝明徳の看板を背負っていく覚悟を口にした。（横田幸成）

きのこの結果  
▽準決勝  
明徳義塾2-1城東  
高知5-2丸亀城西



城東戦に先発し、6回3を散發3安打無失点に封じた明徳の内山  
（写真はいずれも春野球場＝佐藤邦昭撮影）

▽準決勝  
城東  
00000000011  
000002000X2  
明徳  
▽三塁打 寺地▽二塁打 寺